

2025年3月24日

立教大学国際学術研究交流制度  
2024年度「派遣研究員」報告書

1. 派遣概要

所属・職	外国語教育研究センター・教授
氏名	森平 崇文
派遣機関名	Institute of Modern History, ACADEMIA SINICA 所在国：台湾
研究テーマ	中華民国期上海のメディアと芸能について
派遣期間	2025年2月18日～2025年3月18日（29日間）
研究経費	508,660円

2. 派遣期間中の活動

離日日および帰国日を含め、派遣期間中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。

活動内容記入例）〇〇に関する調査、〇〇氏と研究討議、共同研究、講演、視察等

年月日	活動内容
2025.2.18	離日
2025.2.19 ~3.17	中央研究院近代史研究所郭廷以図書館にて資料調査
2025.2.26	中央研究院近代史研究所主催の講演会「檔案奇縁：歴史的奇蹟與見證」（講師：郭岱君）に参加
2025.3.6	国立台北芸術大学戯劇学系にて徐亜湘教授、林子竝副教授と研究討議
2025.3.7	中央研究院近代史研究所都市史研究班の成員（連玲玲、巫仁恕、孫慧敏、宋美莉、張寧、李鎧光）と研究討議
2025.3.10	中央研究院近代史研究所主催のシンポジウム「中日戦争與近代東亞世界的形塑」に参加
2025.3.18	帰国

### 3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果、今後の研究の展望、本学と派遣機関との研究交流にかかる成果、展望等を記入してください。

今回派遣された中央研究院近代史研究所の附属図書館が「郭廷以図書館」である。同図書館には明清時代以降の中国史に関連する中国語、日本語、その他の言語の書籍が多数収蔵されている。書籍以外にも、公文書やデータベースも複数所蔵しており、中国近現代史研究者にとっては世界的に重要な図書館といえる。

派遣期間中、同図書館が開館していた月曜から金曜までは連日通った。館内には中華民国時期（1912 - 1949）上海で刊行されていたタブロイド紙「小報」のうち、代表的な『大世界』、『先施樂園日報』、『晶報』、『羅濱漢』、『金剛鑽』、『社会日報』の記事のデータベースがあり、同データベースを活用して、現在研究論文を作成中の「林歩青」、「黄玉麟」、および既発表の論考で加筆修正が必要なものから「滑稽」、「湯筆花」、「白玉霜」などのキーワードで検索を行い、多くの資料を収集することができた。このデータベースは同研究所に所属するもののみが閲覧可能な、同図書館独自のデータベースであり、今回の派遣期間中、検索したいと考えていたほぼすべてのキーワードを検索することができた。さらに上記の同図書館独自のデータベース以外にも、中国大陸最大の学術データベース「全国報刊索引」も同図書館で閲覧と検索が可能であることが分かった。そこで書籍を含むさらに多くのデータを検索、閲覧して、上海以外の北京や天津で刊行されていた新聞、雑誌の関連記事など、当初の予想をはるかに上回る多くの資料を収集することができた。帰国後、今回の派遣による収集できた資料を活用し、清末の1900年代に上海を風靡した芸人林歩青と、1920年代を通じ中華民国期上海で人気を集めた京劇女形黄玉麟の公演情報に関する論考を完成させたい。

派遣期間中、近代史研究所の都市史研究グループのメンバーと意見交換を行い、台湾における上海史研究、および中国都市史研究の動向を知ることができた。同研究所には複数の都市史研究者が在籍しており、彼らの最新の研究成果や研究の方向性を知ることができたのは、今回の派遣において大きな成果となり、今後の自身の研究にも刺激を与えるものとなった。

2025年度、今回派遣された中央研究院近代史研究所の研究員兼副所長の連玲玲博士を招へい研究員として本学に招へいする予定である。今回の派遣、および2025年度の招へいをきっかけにして、アジア地域研究所を中心とした本学と中央研究院近代史研究所との学術交流がより活発となり、今後の共同シンポジウムの開催、論文集の刊行、データベースを主とする所蔵資料の共有と活用、所属教員の派遣、交流などを積極的に行いたい。